

特別陳列 「鉄道と考古学」

奈良の歴史をつなぐ

展示期間：令和5年（2023）12月16日～令和6年（2024）1月14日

特別陳列「鉄道と考古学」

私たちの社会を支えるライフラインの1つである鉄道が、奈良県で開通してからすでに130年余りになります。今回の特別陳列「鉄道と考古学」では、過去のひとびとの社会を探る学問である考古学の視点から、奈良県の鉄道の歴史をふりかえります。考古学からひもとく鉄道のすがた、そして考古学を支えた鉄道の技術など、鉄道と考古学のつながりについてご紹介いたします。〈公式サイトより〉

特別陳列リーフレットより

第1章 奈良の町に残る鉄道

日本最初の鉄道が開業したのは1872（明治5）年、奈良県でも1890（明治23）県内初の鉄道となる王寺～奈良間（大阪鉄道）が開業。（大阪鉄道・奈良鉄道・関西鉄道大仏線・吉野鉄道・天理軽便鉄道ほか）

第2章 発掘された鉄道

旧国鉄奈良駅の転車台、JR万葉まほろば線の煉瓦遺構、亀瀬隧道

第3章 鉄道のための考古学

1997年度から行われたJR奈良駅連続立体交差事業の遺跡調査による発掘

第4章 考古学を支えた鉄道

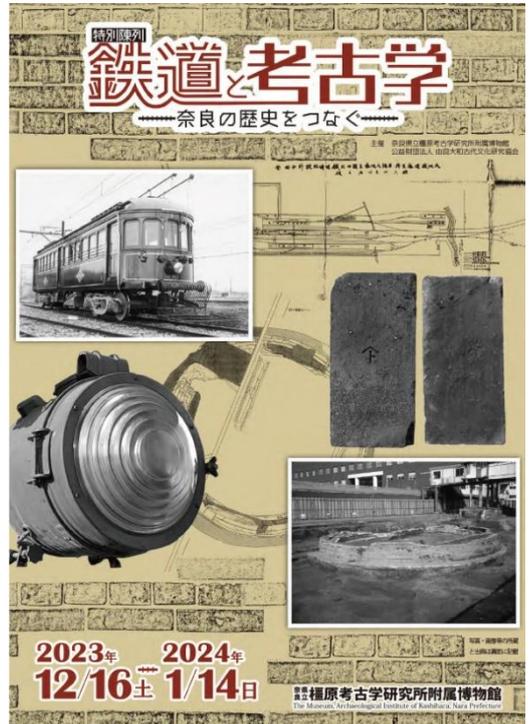
考古学者のフィールドワークを広げた鉄道開発
おわりに

考古学にとって鉄道は、調査・研究の対象となる資料にもなり、発掘調査を行う機会を提供する存在にもなります。

旧国鉄奈良駅前の風景として右の写真が展示

昭和3年国鉄奈良駅前三条本町風景
左奥は旅館「月の家本店」右奥に「いろは旅館」中央奥に棚田嘉十郎の平城京跡の碑が見える

掲載の右下の写真は奈良県立図書館今昔WEBより



展示会場風景 右下写真展示



昭和3年国鉄奈良駅前三条本町風景
写真提供：奈良市立大安寺小学校